

2024年3月期 第3四半期 決算説明資料



株式会社ヴィア・ホールディングス

2024年2月6日

東証スタンダード 7918



2024年3月期 第3四半期 決算概要

業績サマリー	4
既存店売上推移	6
業態別店舗数	7
損益分岐水準	8

事業の状況

業態ポートフォリオ	10
事業動向	11

今期計画

2024年3月期 連結業績予想（前期比）	21
----------------------	----

Appendix

貸借対照表	23
損益計算書	24
株主優待	25

2024年3月期 第3四半期 決算概要



	当期 第3四半期	前期 第3四半期	前期比
売上高	127.3億円	107.3億円	+20.0億円
営業利益	2.2億円	△7.4億円	+ 9.7億円
経常利益	1.7億円	△7.8億円	+ 9.6億円
四半期純利益	1.0億円	△7.7億円	+ 8.7億円

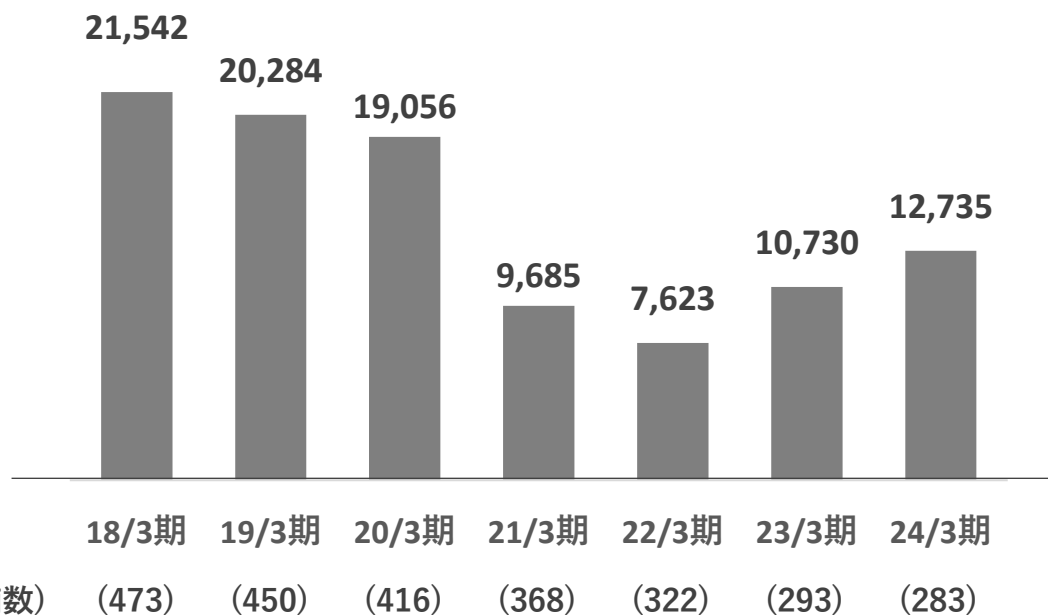
- コロナ5類移行以降、既存店売上はコロナ前に迫り前期比+20.0億円
- 収益構造改革により、環境変化によるコスト上昇分を吸収
- 経常利益は、前期比+9.6億円の改善となり黒字化

業績サマリー 連結業績推移（第3四半期）

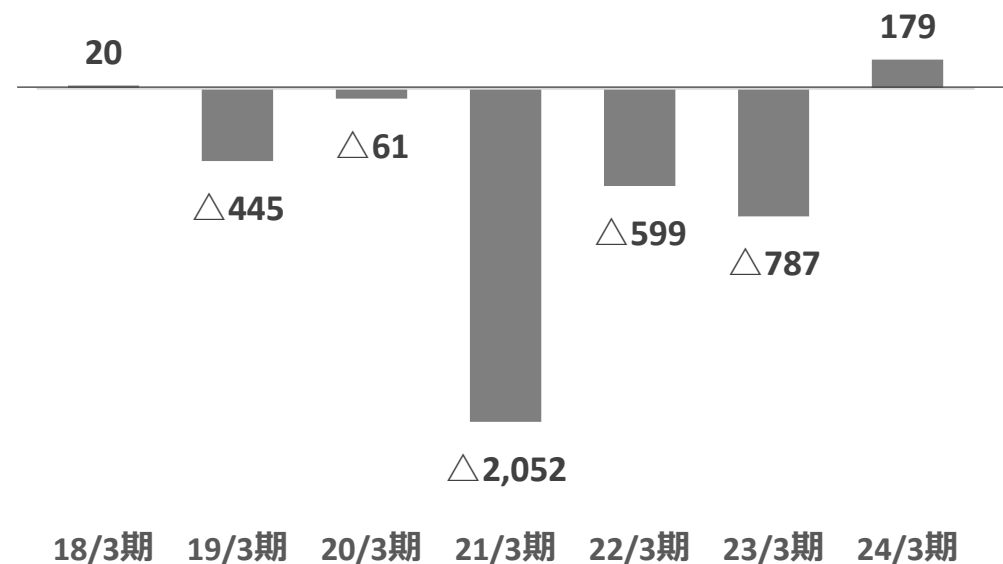


売上高

(単位：百万円)



経常利益



- 1店舗当たりの売上高は18年3月期と同水準に回復
- 不採算店舗の撤退、収益構造改革により6期振りの経常黒字化

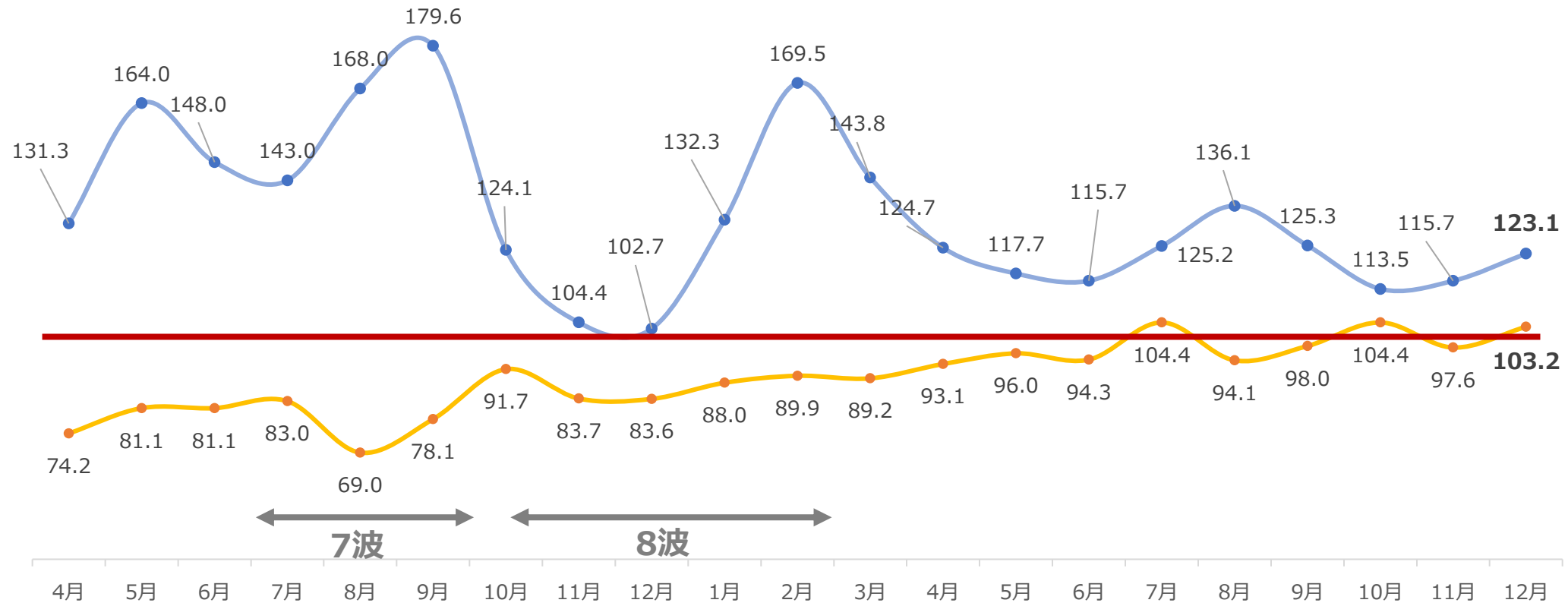
既存店舗 売上高 推移

前年比 / 2019年比



前年比で約120%となり、2019年比でも約100%の回復となる。
足下ではグループの損益分岐点を越える水準で推移。

(%)



前年比

2019年比

7波

8波

2023.3期

2024.3期

業態別店舗数



事業会社	業態	2023年3月期末	2024年3月期 第3四半期			増減
		店舗数	出店	退店	店舗数	
扇屋東日本 扇屋西日本	備長扇屋・やきとりの扇屋・ 炭火やきとりオオギヤ	163 (30)	1	5 (2)	159 (28)	-4
	オオギヤと宇奈とと しんぱち食堂・他	41 (—)	1	6	36 (—)	-5
紅とん	日本橋紅とん	21 (—)	1		22 (—)	+1
	ぼちぼち・他	8 (—)		1	7 (—)	-1
一源	いちげん・とりげん・他	11 (—)		1	10 (—)	-1
一丁	魚や一丁	5 (1)			5 (1)	0
フードリーム	パステル・他 FR(洋食系)	37 (—)		1	36 (—)	-1
	FR (中華系)	15 (—)			15 (—)	0
	カジュアル・ダイニング (バル)	23 (—)		1	22 (—)	-1
グループ合計		324 (31)	3	15 (2)	312 (29)	-12

※ () 内は、FC/のれん分け

損益分岐水準



- 2021年4月の事業再生計画（ADR計画）からは、経営環境の変化が進行
- コスト増加等による損益分岐点の上昇を、収益構造改革で抑える

2021年4月 ADR再生計画	マイナス要因	収益構造改革	現在	直近
<u>損益分岐水準</u>			<u>損益分岐水準</u>	<u>4月～12月実績</u>
売上高 75.0%	・ 行動様式変化	・ 原価低減	売上高 95.0%	売上高 98.3%
客数 73.0%	・ 原材料↑	・ メニュー戦略	客数 83.0%	客数 84.6%
	・ 人件費↑	・ 生産性改善		
	・ 光熱費↑	・ 人員最適化		
(2019年比較)	・ 営業費↑	・ オペレーション構築	(2019年比較)	(2019年比較)
		・ 他		

事業の状況



業態ポートフォリオ

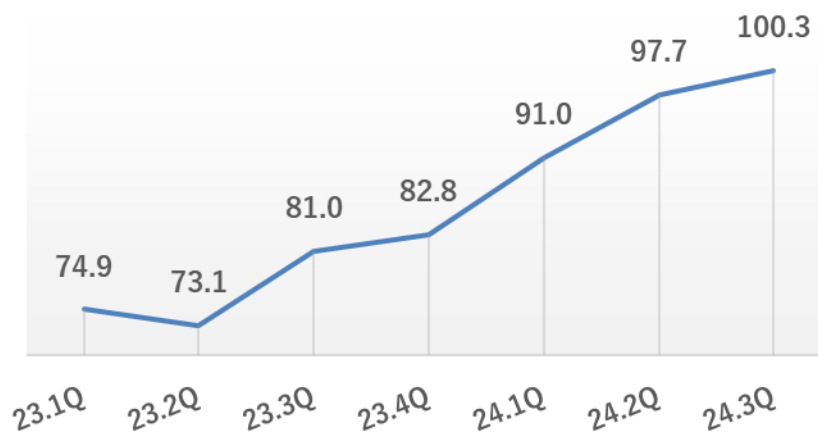


業態	備長扇屋 やきとりの扇屋 炭火やきとりオオギヤ	日本橋 紅とん	魚や一丁	いちげん	FR (洋食系)	FR (中華系)	カジュアル ダイニング (バル)	ぼちぼち
								
客単価	2,500円	2,500円	3,500円	2,800円	1,500円	1,200円	2,000円	2,250円
ターゲット	サラリーマン	サラリーマン (ホワイトカラー)	サラリーマン (ホワイトカラー) アクティブシニア	3世代 サラリーマン	女性グループ	女性グループ	若者グループ カップル	若者グループ ファミリー
出店立地	郊外RSタイプ 駅前BIタイプ	駅前BIタイプ	駅前BIタイプ	駅前BIタイプ	インショップ (商業コンプレックス)	インショップ (商業コンプレックス)	インショップ (商業コンプレックス)	駅前BIタイプ
面積/席数	40坪/80席	25~30坪/70席	150坪/250席	100坪/180席	50~60坪/70席	50~60坪/70席	50~60坪/70席	40坪/60席
標準投資額	4,000万円	3,000万円	8,000万円	8,000万円	3,500万円	3,500万円	6,000万円	4,000万円

※ RS : ロードサイド BI : ビルイン

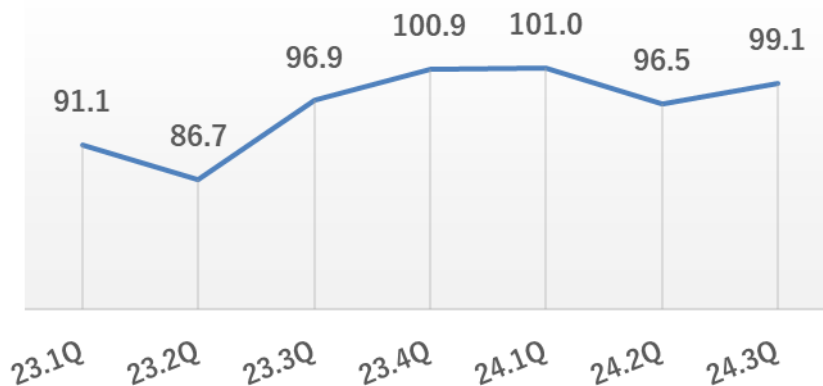


売上高 2019年比 推移



動 向

- コロナ5類移行後、回復スピードに地域格差はあるものの右肩上がりに回復
- メインカテゴリの焼きとりの品質と技術を向上させる施策を実施
- 客単価施策が好影響
- 9月のメニュー改定にて、主力商品「もも串」を国産鶏のまま内容量も維持し、130円から100円への値下げを実施

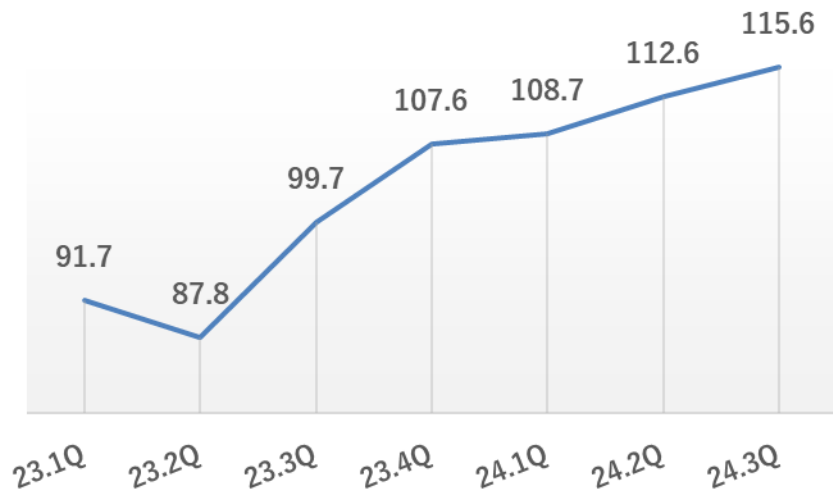


- インショップは、5類移行後もコロナ前の水準を維持
- 客単価施策は好影響も、夏休み期間のディナータイムの客数が鈍化
- ティータイムに客数増を目的としたデザートメニューを導入

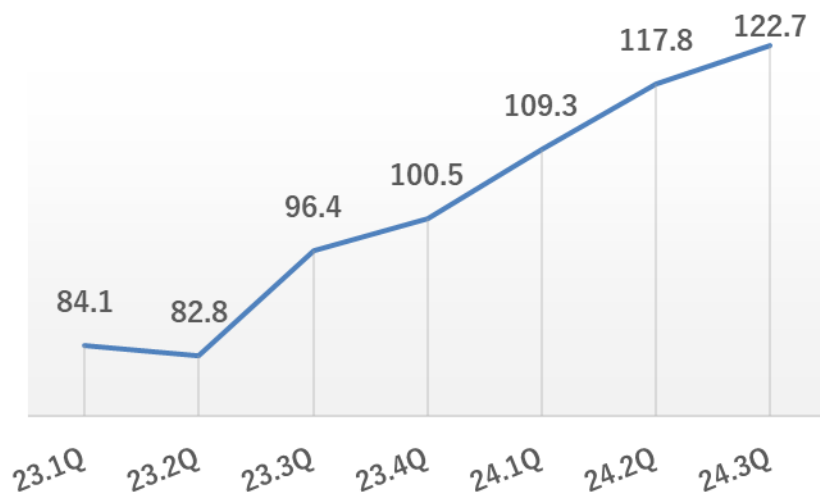


売上高 2019年比 推移

動 向



- 5類移行後は順調に回復
- 生ビールやメインカテゴリの焼きとんなど品質を向上させる施策を実施
- 収益は、他業態と比べて早期に回復



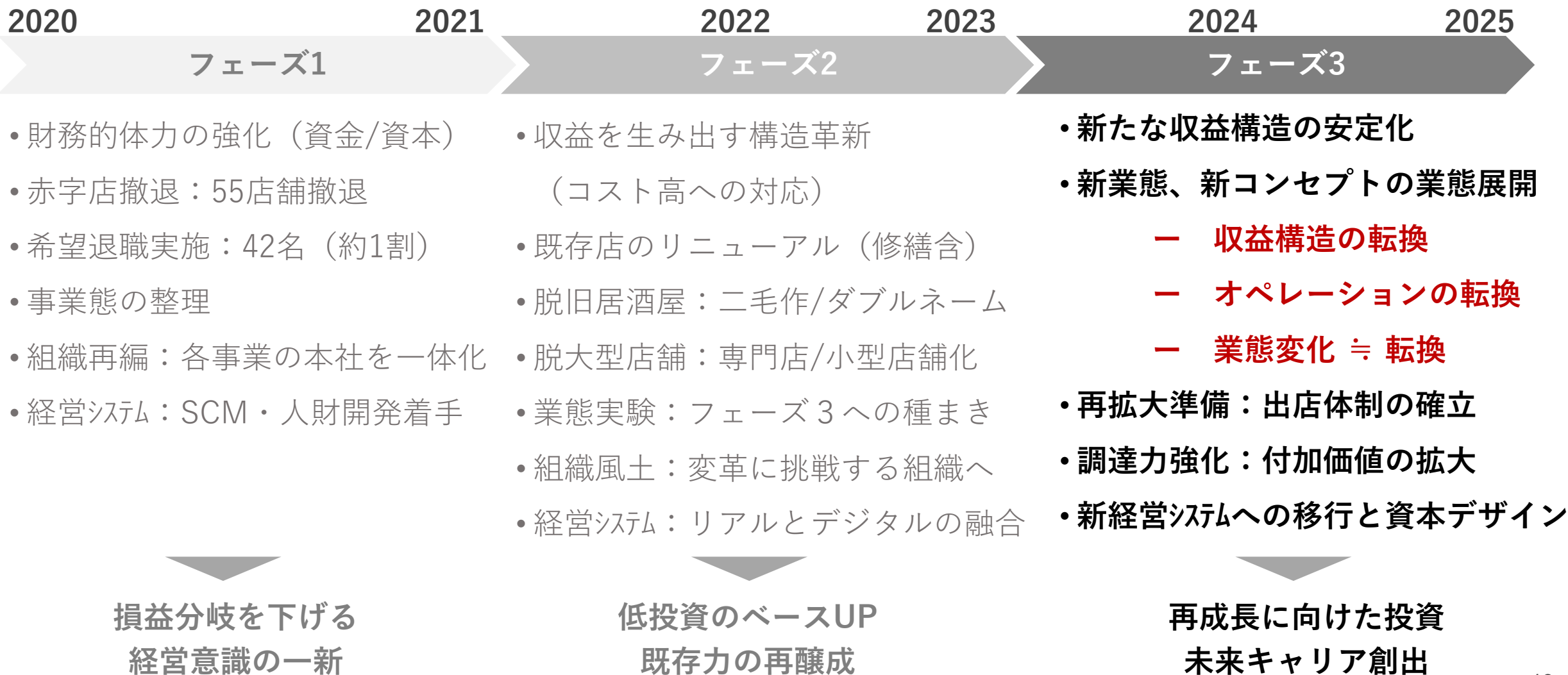
- 5類移行後は順調に回復
- コロナ禍においては、「宴会」の売上構成が30%まで落ち込むも、5類移行後はコロナ前を上回る実績



事業動向 成長ロードマップ



再生から再成長「第3フェーズ」へ





新コンセプト

大阪下町の味 お好み焼
ぼちぼち

お子様もターゲット 駄菓子コーナー・専用メニューの設置



Pastel

ティータイムのデザートメニューを充実



新業態

炭火焼干物定食
しんぱち食堂

立地によりアルコール動機から食動機へ



炭火焼鳥麵飯店
名物追加めし **オオギヤ食堂**

自社開発にて、食動機強化型業態の実験





「日本橋 紅とん」 吉祥寺駅南口 に新規オープン (2023年8月)

新店の新たな取り組み

- ・ これまでの東京23区内から
やや離れた郊外商業地への出店
- ・ ターゲット層の拡大を意識
- ・ 新たな主力メニュー実験



月商売上高は700万円～800万円
営業利益も高い水準で推移



「炭火焼干物定食しんぱち食堂」立川曙町店オープン(2023年11月)

「やきとりの扇屋」からの業態転換

- ・マーケットの変化にあわせて、居酒屋動機から食事動機への業態転換
- ・転換により収益構造も大幅改善



	転換前		転換後
月商売上高	400万円	→	700万円



「新たな収益構造」と「本質への回帰」

1. メニュー戦略

- 業態ごとの主力カテゴリを強化（本質への回帰）
→ 扇屋は、焼き師コンテスト見直しで炭火焼の技術向上
- 戦略的な季節メニューの投入
- 業態特性に合わせた新カテゴリの実験

2. 省人化オペレーション

- 品質向上と省人化を目的とした機器の導入実験を開始
- テーブルオーダーシステムやフロアサービスロボットの導入





「新たな収益構造」と「本質への回帰」

3. 価格戦略

- 立地別価格パターン
- 高付加価値商品の投入
- メインカテゴリの高コスト化
- メニューミックスによる満足度の向上と原価抑制

4. 調達構造

- 調達チャネルの多様化
- 事業ごとに分かれていた購買調達やメニュー開発部門の一本化
- 規格や条件変更、各業態の共通食材などを整理しスケールメリットを活かした価格交渉





再成長に向けた資金調達の実施

行使価額修正条項付新株予約権の発行の目的

- 新規出店や業態転換による店舗拡大
- DXによる新経営システムへの移行
- 安定的な財務体質の構築

具体的な資金使途（予定）	金額 （百万円）	支出予定時期
新規出店投資	1,500	2024年4月～2027年3月
既存店改修投資	600	2024年4月～2027年3月
その他収益構造改革に伴う投資（システム投資等）	217	2024年4月～2027年3月

今期計画



2024年3月期 連結業績予想（前期比）



	2024年3月期	2023年3月期	差異
売上高	18,000百万円	14,553百万円	+3,446百万円
営業利益	470百万円	△933百万円	+1,403百万円
経常利益	350百万円	△1,000百万円	+1,350百万円
当期純利益	250百万円	△1,329百万円	+1,579百万円

Appendix



貸借対照表 第3四半期連結業績



(2023年4月1日～2023年12月31日)

(単位：百万円)

	2024年3月期 第3四半期	2023年3月期 期末	前期比
流動資産	2,419	2,566	△147
固定資産	4,478	4,725	△246
繰延資産	2	8	△5
資産合計	6,901	7,300	△399
流動負債	2,437	2,502	△64
固定負債	3,507	3,817	△309
負債合計	5,945	6,319	△374
純資産合計	955	980	△25
負債純資産合計	6,901	7,300	△399

損益計算書 第3四半期連結業績



(2023年4月1日～2023年12月31日)

	2024年3月期 第3四半期		2023年3月期 第3四半期		前期比	
	金額(百万円)	売上比(%)	金額(百万円)	売上比(%)	金額(百万円)	売上比(%)
売上高	12,735	—	10,730	—	+2,005	—
売上原価	4,166	32.7	3,504	32.7	+662	0.1
売上総利益	8,569	67.3	7,226	67.3	+1,342	(0.1)
販売費及び 一般管理費	8,341	65.5	7,969	74.3	+371	(8.8)
営業利益	227	1.8	△742	(6.9)	+970	8.7
経常利益	179	1.4	△787	(7.3)	+966	8.7
親会社株主に 帰属する当期純利益	103	0.8	△772	(7.2)	+876	8.0



ご優待内容

「株主割引券」をお食事の割引券としてご利用いただけます。
ヴィアグループが全国で展開をする店舗で、1回のご飲食代金が1,000円（税込）ごとに1枚（250円割引）ご利用いただけます。

配付数

保有株式数	株主割引券
100～299株	年間 2,500円相当
300～599株	年間 5,000円相当
600～999株	年間 7,500円相当
1,000株	年間 10,000円相当

- ・ ご優待対象は、保有株式数100株以上の株主様。
(1年ごと、3月末日時点で株主名簿に記載されている株主様)
- ・ 保有株式数1,000株を上限に設定。



【注意事項】

資料の内容につきましては細心の注意を払っておりますが、掲載された情報の誤りおよび当資料に掲載された情報に基づいて被ったいかなる損害についても、当社及び情報提供者は一切責任を負いかねます。

また、当資料に記載されている当社の現在の計画、戦略などは、当社が現時点で入手可能な情報を基礎として作成した見通しであり、これらの将来予測には、リスクや不確定な要因を含んでおります。そのため、実際の業績につきましては、記載の見通しと大きく異なる結果になることがあり得ます。従って、当社として、その確実性を保証するものではありませんのでご了承ください。

【お問合せ先】

株式会社ヴィア・ホールディングス 経営企画担当

TEL : 03-5155-6801

E-mail : via-ir@via-hd.co.jp